

Elucidating variations in outcomes among older end-stage renal disease patients on hemodialysis in Fukuoka Prefecture, Japan

アジズ, ジャマル

<https://hdl.handle.net/2324/4784472>

出版情報：九州大学, 2021, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：

権利関係：(c) 2021 Jamal et al. This is an open access article distributed under the terms of the Creative Commons Attribution License.



氏 名： AZIZ JAMAL

論文名： Elucidating variations in outcomes among older end-stage renal disease patients on hemodialysis in Fukuoka Prefecture, Japan

(福岡県の高齢者における末期腎不全患者の血液透析の格差について)

区 分： 甲

論 文 内 容 の 要 旨

治療の結果や医療サービスの格差は、医療資源の分配が非効率的であることを潜在的に示している。そこで、本研究では、福岡県の13の二次医療圏（SMA）における医療機関で血液透析（HD）を受けている末期腎不全患者の死亡率と入院件数の格差を評価した。本研究は、保険者のレセプトデータを用いた後ろ向き横断研究として設計した。対象者は、福岡県後期高齢者医療の被保険者（65歳以上）とした。電子レセプトデータベースを用い、2017年4月1日から2018年3月31日までにHDを受けた慢性腎臓病（CKD）患者を特定した。CKDの重症度分類は国際疾病分類第10版のコードを使用し、HDの頻度は診療行為コードを用いて特定した。対象基準を満たした患者は5,243名で、これらの患者の記録を評価した。調査期間中に入院記録があった患者は、約73%（n=3,809）であった。そこで、入院期間（LOS）と入院費用についてそれぞれ分析した。いくつかのSMAで、入院リスクの有意な増加が認められた。心不全と悪性腫瘍による死亡リスクの増加が、2つのSMAで確認された。また、SMAにおけるLOS、総入院費、1日あたりの費用の分析では、統計的な有意差が認められた。今回の調査結果は、地域社会におけるCKDおよびESRDの負担の大きさを強調するものであった。ESRDの高い罹患率、それに伴う死亡率、入院しているHD患者の数を考慮すると、臨床医は地域で啓発活動に参加し慢性腎臓病対策に貢献することが求められると考えられる。患者の治療結果を向上させるためには、地域の医療提供体制や医療水準の向上、既存の人材の育成などが必要である。